

★帝国主義国、後進国、「労働者国家」
三ブロック階級闘争を
世界プロ独一世界共産主義の勝利へ！
共産主義者同盟

2月15日
第253号
編集発行人 井村和夫
一部 50円
購読料 20回1300円(千円)

戦旗

戦旗社

中央戦旗社 03(765)8551

東京都本所郵便局私書箱44号

神奈川 支局 045(312)6520
愛知 支局 052(261)6075
京都 支局 075(701)0025
大阪 支局 06(921)1457

横浜市西区北幸町2-10-17
名古屋市東区東山町173ハルモニ会館
京都市左京区下鴨宮崎町128-29
大阪市都島区都島中道3-7-16



静かな熱気をはらんで非合法党建設を誓う

【大阪支局】 昨晩、大阪市内の某会館で、関西地区の同志たちが集まり、非合法党の建設について話し合った。同志たちは、非合法党の建設を、単なる政治的行動ではなく、社会主義的行動として捉えるべきだと主張した。彼らは、非合法党の建設を通じて、社会主義の理想を実現しようとしている。同志たちは、非合法党の建設を、単なる政治的行動ではなく、社会主義的行動として捉えるべきだと主張した。彼らは、非合法党の建設を通じて、社会主義の理想を実現しようとしている。

RG裁判被告団の声明

RG裁判被告団は、本日、裁判所に対して、判決に対する異議を申し立てる。被告団は、判決が不当であり、憲法に違反していると主張する。被告団は、判決を不服とし、上訴を申し立てる。被告団は、判決が不当であり、憲法に違反していると主張する。被告団は、判決を不服とし、上訴を申し立てる。

RGの踏跡のりこえて

RG裁判勝利・関西集会に八百名
RG裁判勝利を祝う集会が、大阪市内の某会館で開催された。集会には、約八百名の同志が参加した。集会では、RG裁判の勝利を祝うとともに、今後の活動について話し合った。同志たちは、RG裁判の勝利を通じて、社会主義の理想を実現しようとしている。同志たちは、RG裁判の勝利を通じて、社会主義の理想を実現しようとしている。

RG裁判被告団の声明

RG裁判被告団は、本日、裁判所に対して、判決に対する異議を申し立てる。被告団は、判決が不当であり、憲法に違反していると主張する。被告団は、判決を不服とし、上訴を申し立てる。被告団は、判決が不当であり、憲法に違反していると主張する。被告団は、判決を不服とし、上訴を申し立てる。

旧同盟系各派に不当搜索 わが中央戦旗社など

【大阪支局】 昨晩、大阪市内の某会館で、同志たちが集まり、非合法党の建設について話し合った。同志たちは、非合法党の建設を、単なる政治的行動ではなく、社会主義的行動として捉えるべきだと主張した。彼らは、非合法党の建設を通じて、社会主義の理想を実現しようとしている。同志たちは、非合法党の建設を、単なる政治的行動ではなく、社会主義的行動として捉えるべきだと主張した。彼らは、非合法党の建設を通じて、社会主義の理想を実現しようとしている。

公安の蜂起への党派闘争

公安の蜂起への党派闘争
公安の蜂起への党派闘争
公安の蜂起への党派闘争
公安の蜂起への党派闘争
公安の蜂起への党派闘争
公安の蜂起への党派闘争
公安の蜂起への党派闘争
公安の蜂起への党派闘争
公安の蜂起への党派闘争
公安の蜂起への党派闘争

関西救済会機関紙
地下水道
7号発売中！ 200円

室 伏 = 日 向 論 文
 への反批判

A室伏 日向の引用文改作の技術

田岡と森を共に同じではないか。何こと最初肝腎要
素に動かし動かした証が餘蘊あり、その証こ
ろからいふ、彼らを引用して引用の改作より
すにはおかぬのである。

以上引用所をし、引用してゐる部分は「で
て」、改作した語句を、コを入れてゐるので、
その部分は、不当に引用からは外れてゐるので

あるにかかわらず、この『実践』も『実践の
立場』に於いては、たゞに階級闘争として、山岡が
に、主権的唯論的傾向性があるもので、山岡が
経済界から外れる原因である。黒田が、コト
として、「階級的人間の生産活動」といったので
、それは念のかでの産活動でないかなのである

ゆゑにした。（後掲扉開）

③ 経済学のスターリン主義の屈服 なる題目も
スターリンは、資本主義の経済法則を剰余価値の法則
に求め、現代資本主義・独占資本主義を基本的原則
を最大利潤率の追求であるとする。この区別が原
論文であつて、いまでもそこを指摘しなくてはならな
が、これをミスを冒し書こんだあたり、次のような勇
気不足を示している。

「彼は正しくない。要は純商品生産は本制生産様式で
ある。それに行つてゐるのではなく、理論上は本
制生産様式と見做すべきではないこと。論理上は
価値形成過程と、価値増殖過程と統一として資
料生産は社会商品生産の範疇の中に存在してい
るが、歴史的には由來労働者出現と、この区別が原
労働者が自らの労働を賃金と交換する時からの
生産の様式である（以下略）」云々。そのためは発
生したのが本主（？）といふことである。

[illegible][illegible][illegible][illegible]

B
室
伏
||
日
向
の

資本主義理解の小ブル性

[illegible][illegible]

(二面より)

は強き及び無産階級という階級が効力を失つた後に、生産階級の社会にも「もう一階級」が生じたのである。

(P4)

であるが、スターリンの経済法則そのものに対する意見も、それは猶ほそれには異なつたところがある。

まず「生産階級は、生産階級の性格がそれより照然とする」との特殊原因が本質になつてゐる。そしてこの法則の特色は、旧勢力が新しい勢力との闘争の結果、その作用を失つたことである。

次に本主義としては、生産は強き及び無産階級の力によるものである。この無産階級の力に對して、國際階級の力があるといふのは、この法則に生ずるものである。そして社会主義の計画経済は、この法則に對する適用したものであるといつてゐる。

「法則の適用した」として、譯してゐるが、プロタラア独裁を用いたと後、経緯は「党國家」がそれであつてゐたことである。

他の大衆組織を通じてプロレタリア人民の生産の機械化として政治的運動を、スターリンの政治的運動の計画の基礎を「社会主義における國民階級の力」としての階級の必然性の問題」とつとめ、そしてこの法則と對照して「プロレタリアの任務を提起してゐる」とである。だがスターリンの本質は、「社会主義経済の法則に對する決定論的」である。

といふのは、計數經濟が考慮に取れないではないが、これは、従つての生産の階級の階級、生産階級の自然的条件である。これは「労働が自然として經濟的である」といふ上から、一階級が自然として經濟法則では正しくない、ところが本来、經濟法則はないものを經濟法則に對する責任を問ふことによつてスターリンはプロレタリア階級の政治的責任を問ふといつてゐる。

のである。計數經濟失敗はすべて法則の適用の仕方があるからであつてゐる。

そしてさらに重要な問題は、プロレタリアが「國境を越えてゐない」客觀的運動を、客觀的の制約として「國境を越えてゐない」、一國社会主義の制約として「國境を越えてゐない」客觀的運動と理解し、輸入に「制約的」政治的解決してゐる。客觀的制約が政治的に解決してゐる。一方、政治的に解決してゐるが法則として磨かれた一切が駆逐してゐる。これがスターリン主義の本質であり、スターリン理論としての連労働階級の地位を維持するための理論であり、言へば、過渡期世界の「いわゆる階級制の共存」を決定化する理論である。そのうちにそれは、世界「口線」に世界革命に對する反動を抑へる体系でありマルクス主義とは無縁なものである。

(V) ところで經濟法則を機械法則とを切り離すのは、階級と資本、剩餘價值を否定しなかつたといふことは多クあらである。マルクスは、「商品生産がその社会の内在的動機に従つて資本制に発展する」とその自身と「商品生産」所有が資本制の発展の法則に支配する」といふ資本制に對する商品生産を支配する。そして資本制の発展に對する商品生産を支配する。資本主義の発展に従つて「その一切の隠れた能力を我々に与へてゐる」のである。

またスターリンの「平均利潤」に對する考へ方にも無縁である。スターリンの「資本」の考へ方とは平均利潤の形では、個々の資本が長期的利潤を追求するといふ衝動からなされることを基礎としてゐるのである。そして「この最大の利潤の追求は、個々の資本によつて解明する」のである。

最大の利潤の追求は、かつて、個々の資本の衝動であり、それは一つの特色であるけれども、それは決して一般的の機關が何の論理的の連環をもく論じられてゐる。であるならば、現代資本主義の「基本法則」を最も「利潤の追求」としてとらへる意味は、この資本主義である。それは「コロネア」と人を搾取を容れざる、貧困化することとを説明するものとして提起されてゐるのである。

スターリン主義者は、資本主義の危機の見取し圖を大體「階級」から、一方の手で「共産主義運動」を拒みつつ、自らをマルクス主義の「正義」として維持しようとしてゐるのである。

だが、この「階級」の理論によつては、それこそ、資本のなかの貧困の心を、その中に「コロネア」の革命的力をもたないことになるのである。われわれが労働階級の革命的機械化を提議する場合、それは単なる資本主義の危機の見取し圖を「階級」にだけはなく、革命的の政治闘争へ衆衆を組織しなければならぬ。

(九) スターリンの

まり社の消滅と発生を「経済法則」として把握していることである。スターリンが「生産関係は生産力性の性格にかならず即座で反映する」というのとは、社会主義の必然性のことと同じで、いかに合理的でないものである。スターリンの説には、プロレタリアート資本主義論を研究して能力が展露すると、「社会主義社会が不可避である」と認識したので、この間を応用するために、革命運動や闘争という手段になつてゐる。

ここにスターリンの自己見識的の本質があらわれている。革命に対するような考え方は、理論上であらう。「政治権力の奪取の結果は、階級闘争によるもの」(註二)といふことは、一面正しいとしても、一面重大な誤りである。

さて、スターリンの法制論が一変前の論理であり、科学的備蓄をもつていないことが次々立証されなければならないのである。

そのためには先づスターリンの価値観について理解を得なければならぬ。さらに価値観は基本主義批判の軸をおもひよりのものでない以上、それは、各共産党との路線上の離れとして見るべきではない。

まず、スターリンの価値法則を理解を自身で語らぬ限り、「一個価値には、資本主義の基本的経済原則ではない何か」、「一つ価値は、資本主義の基本的経済原則ではない何か」、「一つ価値は、資本主義の基本的経済原則ではない何か」といふことになる。

これは現代資本主義の基本的経済原則ではありえない。則是現代資本主義の基本的経済原則ではありえない。理由も、競争・生産の政府性の法制にあるのは、種々つた「面々」における資本主義の不均衡な発展の法制も資本主義の基本的経済法則ではありえない。

平均利潤の法制が現代資本主義の基本的経済原則だと主張するのは正しくない。現代資本主義、独占資本主義、平均利潤の法制は正確には正しくない。

資本主義の基本的経済法の概になり得たりも通じているのは、剰余価値の法制である。^(一)「剰余価値は、資本主義の基本的経済法則である。」

則としたスターリンのそれには政策的にどのような意味をもつてゐるか、それは、明らかにすむ。革命を法制の認識の集団にしてしてやることの必然的な帰結である。革命を法制として理解し、その法制の認識問題となさずして、そのうえで、党の目的の達成の問題となる。

また、スターリンの価値観は、プロレタリアートの共産黨運動への反革命的抑圧であるとせずに見きたのである。党の戦略の理論的骨格が、現代資本主義の全般的倫理であり、さらに「社会主義社会における価値法則が存在する」というのが最も最近利潤の法制が認められてくるまで、その認識に「現代資本主義の表現としての資本主義」と現代資本主義の区別の問題のみが興味をもつてゐた。ここでは、資本主義の表現としての資本主義へ訂正しておいた。これは単なる表現の修正である。

★「スターリン主義の解体のために」(註三)
終りV
宣扶目向の指導のため、スターリンの価値法則批判の項の「資本主義」と現代資本主義の区別の問題をのみが興味をもつてゐた。ここでは、資本主義の表現としての資本主義へ訂正しておいた。これは単なる表現の修正である。

運動はいききてしまふ。そればかりではない。それが、このような「命題論」で置きざりであることによつて、プロレタリアの運動に対する反革命抑圧の体系と転化してゐるのである。

次にタリヤンとその「社会主義的経済法則」とをみてみる。すなひたまたまに「プロレタリア革命」といふ政治的事業を解決するためにあらはれたものとして、プロレタリア独裁の政治をも全う法則性のない諸問題を提起することさえもない。それゆへ他種法則には、真の目的の前進を学習してゐるのだといふことを念頭に、おかげなればなるか、これこそ現代資本主義の本質的経済法則である。」(P.47)も要するに「⑧—(Ⅰ)労働法則即ち商品生産の法則であり、「社会主義」にも残存するところでは、現代資本主義の「基本法則」は、「最大利潤の法則」だとされるのである。

(Ⅱ)(Ⅲ)(Ⅳ)でいう「貸付」とは、最大の利潤の要求ということ、資本主義的経済法則ではなく、個々の資本家階級の活動としてあらはれてくる。(Ⅴ—(Ⅶ)「資本主義批判」においてマルクスのように修正した（英訳）プロレタリアートをどくさうにしてゐるのかを次々説明する。

「しかしながら資本主義根本的矛盾としての労働力の面化は、資本・労働対立を産生し、完全な物化され仕掛けられてゐる故に、その現存を押し、自己を解放せよとする、本能的に衝動的な暴怒としてそのロバート・トランプ等、この証言を生ずる。」

呼ばれ四方に散れば、「労働力の面化は……完全に物化され押圧されてゐる故に……プロレタリアートの者類を募集し、その抵抗を生み出す。」云々。

ここではプロレタリアートの闘争の根が商品形物化してあらはれてしまつてゐる。これもマルクス主義の教義である。われわれは「プロレタリアートの闘争」を修め、超然と、われわれ自身にさうするべきことを求めよう。

[illegible]

の好む姿状に向は、生産過程のかかひをうかつて使用価値と価値を見分けしものかね。おどろく樹液で売上げた其のもの（溶けた）生産過程のことから見て、生産過程自身が品形形態を養ふことを見るにこそできているであらう。

文字通りの原理的ななかから生産過程それ自体的分析を商品経済には不純要するといつても、それを動力とする生産過程となすけ、経費問題として指定した上で、「第一」、人間-人間の社会的関係が、物と物の関係としてあらわれないことは、マルサスが描出した商品の物神化形態そのものの内の一節でありたいことが、ところがこのマルサス主義の人物批判の意図たることによって、当前の主観的物神化思想に近いところによつて、現実に主観的に認められ、マルサス主義も、右翼修正主義へ感嘆主張へと堕落させてしまふのである。

というよりは、字野学としても、野田一、赤沢白日間翔

[illegible][illegible][illegible]

党の正規軍建設に邁進せよ！

1. 25政治集会

圧倒的に成功

【東京15日電】日本共産党の第25回全国政治集会は、14日午後、東京市立大ホールで開かれ、出席者は、約1,500人、観客は、約2,000人、集会は、圧倒的に成功した。集会は、午後7時、開会式で始まり、久保木久保雄委員長が、開会詞を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。

2. 4中央工業展

体闘争を貫徹！

【東京15日電】日本共産党の第25回全国政治集会は、14日午後、東京市立大ホールで開かれ、出席者は、約1,500人、観客は、約2,000人、集会は、圧倒的に成功した。集会は、午後7時、開会式で始まり、久保木久保雄委員長が、開会詞を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。

1. 29破防法公判

開かる

【東京15日電】日本共産党の第25回全国政治集会は、14日午後、東京市立大ホールで開かれ、出席者は、約1,500人、観客は、約2,000人、集会は、圧倒的に成功した。集会は、午後7時、開会式で始まり、久保木久保雄委員長が、開会詞を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。

緊急アピール

【東京15日電】日本共産党の第25回全国政治集会は、14日午後、東京市立大ホールで開かれ、出席者は、約1,500人、観客は、約2,000人、集会は、圧倒的に成功した。集会は、午後7時、開会式で始まり、久保木久保雄委員長が、開会詞を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。

予防反革命の介入に 抗議する！

鉄の戦線編集委員会

【東京15日電】日本共産党の第25回全国政治集会は、14日午後、東京市立大ホールで開かれ、出席者は、約1,500人、観客は、約2,000人、集会は、圧倒的に成功した。集会は、午後7時、開会式で始まり、久保木久保雄委員長が、開会詞を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。

共産主義

共産同政
治機関誌

14号 発売中！ 残部僅少

定価 450円 (70円)

日向体系破産の根拠

方法論批判

鉄の戦線 編集委員会

【東京15日電】日本共産党の第25回全国政治集会は、14日午後、東京市立大ホールで開かれ、出席者は、約1,500人、観客は、約2,000人、集会は、圧倒的に成功した。集会は、午後7時、開会式で始まり、久保木久保雄委員長が、開会詞を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。久保氏は、この集会が、党の歴史の中で、最も重要な集会の一つであると述べ、党の正規軍建設に邁進する決意を述べた。